



インフォ・マート

Info Mart

(自主公演のチケットのお求め・お問合せはこちらへ) 04-2998-7777 | <http://www.muse-tokorozawa.or.jp>



vol. 109



人形浄瑠璃 文楽

三位一体で醸し出す！
日本が世界に誇る伝統芸能

▼
P1

読売日本交響楽団 第10代常任指揮者

セバスティアン・ヴァイグレ [指揮] ▶ P3

ピアノの「真髓」を聴く。男たちの直球勝負！

Weekend Piano Series ▶ P5

物語を語る「太夫」
 情景を音で表現する「三味線」
 一体の人形を三人で遣う「人形」

三位一体で醸し出す！
 日本が世界に誇る伝統芸能

人形浄瑠璃

文楽

各演目のここがみどころ！

昼の部

二人三番叟



天下泰平や五穀豊穡を祝うおめでたい演目。太夫・三味線、人形いずれもが躍動感あふれ、足遣いが踏む足拍子やシャンシャンと鳴り響く鈴の音、袖を振って舞う踊りは圧巻。二人の三番叟が踊り比べる様子のおかしみは必見です！

撰州合邦辻 合邦住家の段



有名な「しんとく丸」（身毒丸）伝説をもとに作られた演目。恋と嫉妬、怒りと悲しみ、心情の激しさと、音楽とともに表される嫉妬による「狂乱のさまぐは、見どころ、聞きどころの一つ。

夜の部

本朝廿四孝 十種香の段・奥庭狐火の段



諏訪湖に伝わる白虎伝説を題材にしたファンタジーな演目。「奥庭狐火の段」は、通常黒衣姿の左遣いと足遣いも顔を出すという限られた演目の一つ。
 狐の登場や、一瞬にして姿を変える人形遣いの早替わりにも注目です！

釣り女



独身の大名と太郎冠者が「恋人が欲しい」と神社へ赴き、大名が祈願すると絶世の美女が。自分も続けと太郎冠者が意気込むと悲劇が訪れます。外国では観客の反応が違うのがこの「悲劇」。太郎冠者の釣りあげた「醜女」のほうだんぜん魅力的だとか。さて実際は…。



人形浄瑠璃「文楽」とは

人形浄瑠璃は、江戸時代に大阪で生まれた人形芝居で、耳で聞く語り物音楽の「浄瑠璃」と視覚で魅せる「人形」が融合した日本の重要無形文化財。「文楽」とは、人形浄瑠璃を上演する小屋（劇場）の一つの「文楽座」が大きな人気を博したことから、後に人形浄瑠璃と言えば「文楽」と言われるようになりました。

初めての「文楽」どう楽しむ？

その一 人形の表情を楽しむ！

文楽は三人で一つの人形を動かします。大きなもので130cm〜150cmほど、重さにして10kgもある人形を、主遣い（しゅぢい）の体の動きが司令塔となり一体となって動かすことで、時には迫力のあるダイナミックな動きを、そして時には繊細な動きを見事に表現します。

その二 衣裳を楽しむ

人形には肉体がないので、衣裳には綿が入っており、糸で胴部に縫いつけています。種類、模様など役柄に合わせて作られ、高貴な役の衣裳は豪華で華やかなものも多いです。人形は人間と違い途中で着替えることができないので、一つの役柄で衣裳の異なった人形が何体も用意されていることもあります。

その三 太夫の緊迫感、三味線のバチさばきを楽しむ！

太夫とは物語の語り手のこと。登場人物の台詞はもちろん、情景や状況も一人で語り分け、声色だけではなく全身全霊を注いで、人物の神髄、喜怒哀楽、情景を表現します。その情景を音で彩るのが「三味線」。太く強い音色は、たった一音でその背景や心情を表現するほど魅了します。太夫と三味線とが、互いに緊張の呼吸を重ね合わせ、意気を合わせることで醍醐味です。

人形だからこそ人間の本质を表現できる人形浄瑠璃「文楽」。今回の公演では冒頭に出演者による解説があり、上演中は字幕がつきますので、初めての方でも気軽に楽しむことができます。息の合った世界最高峰の人形劇を会場でお楽しみください。

注目！ 女性の人形には足がなく、足遣いは着物の裾に腕を入れて足の動きを表現します。



主遣い（おもづかい） 人形遣いの司令塔。頭部と右手を動かす
 左遣い（ひだりづかい） 左手を動かし、小道具を出し入れする
 足遣い（あしづかい） 両足を動かす

注目！ 人形遣いは、まず足遣いから始め、左遣い、主遣いへと進みます。足10年、左10年と言われ、主遣いになるまでには長い修行を必要とします。

人形浄瑠璃「文楽」

～解説・字幕付き～

10月17日（土）
 昼の部13:30開演
 夜の部18:00開演
 マーキーホール

料金◆ 全席指定¥4,000
 昼夜セット¥7,000

※未就学児の入場はご遠慮ください。
 ※新型コロナウイルスの感染状況により出演者の変更や公演中止の可能性もございます。
 最新情報は所沢ミュージアの公式ホームページでご確認ください。

セバスティアン・ヴァイグレ

「指揮」



Sebastian Weigle

2019年4月より読響の常任指揮者を務めるセバスティアン・ヴァイグレ。フランクフルト歌劇場の音楽総監督を務め、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場でも絶賛を浴び続ける名指揮者の足跡に迫った！

若きホルンの名手 〜巨匠バレンボイムとの出会い

東西冷戦真ただ中の1961年、東ベルリンで生を受けたヴァイグレ。東ドイツで最高峰

の教育機関アイスラー音楽学校で学ぶと、わずか21歳でベルリン国立歌劇場の首席ホルン奏者に就任する。当時、ベルリン国立歌劇場の音楽監督は、N響への客演でもおなじみの巨匠オトマール・スウィトナーだった。そし

て、首席奏者就任から7年が経過した1989年、ヴァイグレはベルリンの壁の崩壊とその後の東西ドイツの統一という激動の瞬間を経験することになる。音楽学校では指揮法も学び、指揮活動にも

強い関心を持っていたヴァイグレは、1992年にスウィトナーの後を受けてダニエル・バレンボイムがベルリン国立歌劇場の音楽監督に就任すると、巨匠バレンボイムの励ましを受け、指揮者としての活動を徐々に本格化。1997年、ついに首席ホルン奏者を辞して、ベルリン国立歌劇場の第1カペルマイスター（首席指揮者）に就任。音楽監督であるバレンボイムと共に、今度は指揮棒を手にヨーロッパ最高峰の歌劇場を牽引していくこととなる。

パイロイト音楽祭といった超一流の劇場から出演オファーが殺到。世界の頂点とも言える檜舞台に次々と出演し、高い評価を獲得した。2004年にはスペインの最高峰、リセウ大劇場の音楽監督に任命され、優れた手腕を發揮。さらに2008年からはドイツ屈指の歌劇場であるフランクフルト歌劇場の音楽監督に就任し、ドイツ音楽を中心に幅広いパトリリーで成功を収め、世界でも最も充実した劇場へと押し上げた。こうした活動が評価され、ヨーロッパで最も権威ある雑誌の1つ「オーパン・ヴェルト」の「年間最優秀指揮者 Conductor of the Year」に4度も選出されるなど、ヴァイグレの活躍はとどまるところを知らない。

が経過した現在でも色褪せることなく愛され続けている。「第九」の真価をいち早く見抜いたワグナーは、自らが建設したパイロイト祝祭劇場で演奏。以来、ワグナー作品を専門とするこの劇場で、ワグナー以外が演奏される唯一の曲となった。さらに第二次世界大戦で破壊されたウィーン国立歌劇場の再建を記念する演奏会（1955年）ではブルーノ・ワルターが、ベルリンの壁の崩壊を記念する演奏会（1989年）ではバインスタインが指揮するなど、ヨーロッパの歴史的な機会においては必ずと言っていいほど「第九」が取り上げられてきた。

ウィーン、ベルリン、ニューヨーク 〜世界の頂点へ

長くホルン奏者として活躍し作品を知り尽くしたヴァイグレは、指揮者として活動を開始するとすぐさま卓越した手腕を発揮し、一気に世界の注目を集める。とりわけ、モーツァルト、ベートーヴェン、ワグナー、R. シュトラウスなどドイツ作品では数々の名演奏を繰り広げ、ウィーン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、そして

ベートーヴェンが書き残した「第九」は、60分を超える規模においても、声楽が加わるという革新性においても、楽聖の総決算とも言える傑作だ。その音楽は、初演から190年以上

ヴァイグレ自身も28歳のときに経験したベルリンの壁の崩壊と、その際に演奏された「第九」が強く印象に残っているようで、インタビューでは「喜びを共に歌い上げるときに演奏される作品」であり、「歌詞の通り、世界を抱擁してくれるような曲」と答えている。読響の常任指揮者に就任後、初めて取り上げる「第九」では、ヴァイグレの作品に対する深い愛情と共に、ドイツ音楽への透徹した眼差しが光る名演奏が繰り広げられるだろう。

人類最大の音楽遺産 〜ベートーヴェン『第九』

ベートーヴェンが書き残した「第九」は、60分を超える規模においても、声楽が加わるという革新性においても、楽聖の総決算とも言える傑作だ。その音楽は、初演から190年以上

が経過した現在でも色褪せることなく愛され続けている。「第九」の真価をいち早く見抜いたワグナーは、自らが建設したパイロイト祝祭劇場で演奏。以来、ワグナー作品を専門とするこの劇場で、ワグナー以外が演奏される唯一の曲となった。さらに第二次世界大戦で破壊されたウィーン国立歌劇場の再建を記念する演奏会（1955年）ではブルーノ・ワルターが、ベルリンの壁の崩壊を記念する演奏会（1989年）ではバインスタインが指揮するなど、ヨーロッパの歴史的な機会においては必ずと言っていいほど「第九」が取り上げられてきた。



250年を超える歴史を誇る名門ベルリン国立歌劇場 (1970年代)



戦後のベルリン国立歌劇場を率いた名匠オトマール・スウィトナー



15年にわたりベルリン国立歌劇場の首席ホルン奏者として活躍



指揮者への道を後押ししてくれた世界的巨匠バレンボイム



ベートーヴェンの自筆による『第九』の楽譜

読売日本交響楽団
セバスティアン・ヴァイグレ [指揮]

12月27日(日) 14:15開場 15:00開演
アークホール

料金◆全席指定
S席:¥8,000 A席:¥7,000
B席:¥6,000

曲目◆ベートーヴェン: 交響曲第9番
「合唱付き」

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※新型コロナウイルスの感染状況により出演者の変更や公演中止の可能性もございます。最新情報は所沢ミュージアの公式ホームページでご確認ください。



ベートーヴェンは1821~23年の毎夏をウィーン郊外の温泉保養地バーデンで過ごし、この家では「第九」の作曲の大半が進められた。



ホイリゲ(ワイン酒場)のマイヤー・アム・プファールプラッツ。ベートーヴェンは1817年、ここに滞在して「第九」の作曲をした。



交響曲第3番『英雄』、第5番『運命』、第6番『田園』など、多くの傑作が初演された美しいアン・デア・ウィーン劇場。



1802年、難聴に苦しんだベートーヴェンはハイリゲンシュタットのこの家で遺書を書いた。現在は博物館として公開されている。



ウィーン最古のカフェの1つ、フラウエンバー。2階にはモーツァルトやベートーヴェンが演奏をしたサロンがあった。

**音楽の都
ウィーン**

ベートーヴェンとめぐる

ウィーン周辺にはベートーヴェンが住んだ家や、ゆかりの深い劇場やカフェがいまも数多く現存します。街をめぐると素顔のベートーヴェンが見えてくるかもしれないですね。



Leif Ove Andsnes

© Gregor Hohenberg

ピアノの「真髄」を聴く。男たちの直球勝負！

世界の第一線で活躍するピアニストを聴くウィークエンドピアノシリーズ。今回はノルウェーのアンズネス、ロシアのゲルシュタイン、日本の牛田智大と男性ピアニストが集結！美しい響きのアークホールで、実力派が紡ぐ珠玉の名曲を存分にご堪能いただこう！

Weekend Piano Series

休日の午後に燦めく
ピアノの響き



全3公演チケット好評発売中

アークホール

レイフ・オヴェ・アンズネス

2020年12月5日(土)
14:15開場 15:00開演
S席:4,000円 A席:3,500円

モーツァルト: 幻想曲 K.475
ベートーヴェン:
ピアノ・ソナタ第8番 op.13「悲愴」
バルトーク: 3つのブルレスク
シューマン: 謝肉祭(全20曲) op.9
ほか

キリル・ゲルシュタイン

2021年1月17日(日)
14:15開場 15:00開演
S席:2,500円 A席:2,000円

ドビュッシー:
ピアノのための12の練習曲
ハイドン: 幻想曲 Hob.XVII:4
ベートーヴェン: 幻想曲 op.77
シューベルト:
さすらい人幻想曲 D760 op.15

牛田智大

2021年3月13日(土)
13:15開場 14:00開演
S席:2,500円 A席:2,000円

J.S.バッハ: イタリア協奏曲 BWV971
ショパン:
ピアノ・ソナタ第2番 op.35「葬送」
ポロネーズ第6番 op.53「英雄」
バラード第4番 op.52
ほか

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※新型コロナウイルスの感染状況により出演者の変更や公演中止の可能性もございます。最新情報は所沢ミューズの公式ホームページでご確認ください。



Kirill Gerstein

© Marco Borggreve

高度なテクニックと強靱なタッチで世界を魅了！

レイフ・オヴェ・アンズネス

所沢ミューズ初登場は2016年の11月。アンズネスが愛してやまないシューベルト、ショパンに加え、ドビュッシーとシベリウスの美しい小品を取り上げ、零れ落ちるような美しい抒情で聴衆を魅了した。世界でも屈指の演奏技巧の持ち主だが、テクニクをひけらかすことはまったくしない。むしろピアノの美しい響きがホールの隅々にまで行きわたるのを静かに待つかのような、詩情豊かな表現が際立っていた。

アンズネスは、ほかの多くの一流ピアニストのような輝かしいコンクール歴がまったくと言っていいほどない。にもかかわらず、17歳でデビューするとじわじわと頭角を現し、実力だけで世界の頂点を極めてしまった。いまやウィーン・フィルやベルリン・フィルなどと共演を重ね、室内楽やリサイタルでも世界中からオファーが殺到する。また、2011年から4シーズンにわたる「ベートーヴェンの旅」は世界27か国で絶賛の渦を巻き起こし、グラミー賞には通算8度もノミネートされるなど、ピアノ界の新帝王とも言える目覚ましい活動を展開している。

4年ぶりとなる所沢ミューズでのリサイタルは、ベートーヴェンの「悲愴」とシューマンの「謝肉祭」をメインに据えた多彩な曲目が並んだ。いまなお深化を続ける名手による、「知」「情」「意」すべてがそろった名演奏にご期待いただきたい。

キリル・ゲルシュタイン

1979年ロシアに生まれたゲルシュタインは、名門バークリー音楽大学創設以来、最年少の14歳で同大学の学生となるなど神童ぶりを発揮。2001年に難関ルービンシュタイン国際コンクールで優勝し世界の注目を集めると、ヴィオラの名手ツイマーマンとの共演(2枚のCDをリリース)でも高い評価を獲得する。

ゲルシュタインの特徴は、何と言っても強靱なタッチによる豊かな響きと抜群のテクニックだ。深みのある表現と、難所をもともしない高度な技巧は、伝説の巨匠リヒテルを彷彿とさせる。2018年に樫本大進「Vn」と所沢ミューズに初登場した際も、豊かな響きと燦めくような硬質なタッチで、見事にヴァイオリンを支えた。

近年は、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、コンセルトヘボウ管、チェコ・フィル、ロンドン響などの一流オケと共演を重ね、楽団員からの評価が極めて高いという。指揮者ではラトルとビュシコフの信頼が厚く、さらにジンマン、デュトワ、ギルバートからも次々と指名されるなど、その活躍ぶりはまさに飛ぶ鳥を落とす勢いだ。

今回、所沢ミューズでの初リサイタルは、色彩の魔術とも言えるドビュッシーの名作、そしてハイドン、ベートーヴェン、シューベルトの「幻想曲」を揃えたこだわりのプログラムだ。いままさにキャリアの頂点を極めようとする名手の、ファンタジー溢れる演奏をお楽しみいただこう！

牛田智大

ともはる

12歳でCDデビューを飾り、みずみずしい演奏と愛くるしい笑顔で話題をさらった牛田智大。所沢ミューズ初登場は、2013年9月16日(13歳)。しなやかで丁寧な音楽づくりと、ピュアで輝くようなタッチで満席の聴衆を魅了した。2度目の登場は約1年後、東響とのラフマニノフ・ピアノ協奏曲第2番で、「これが少年の演奏か!」と思うほどロマンティックで深い情感を聴かせた。リハーサルに立ち会った楽団関係者の1人が「これは本物だね!」と舞台袖でつぶやいたのがいまでも忘れられない。

3度目は2017年のお正月(17歳)。前年に逝去した中村絃子さんの代役としてニューイヤール・コンサートに立ち、ラフマニノフ・バガニーニ狂詩曲で圧倒的な名演奏を繰り広げ絶賛を浴びた。クリアで力強い打鍵、卓越した技巧、情感豊かな音楽性は、牛田智大がすでに一流ピアニストに必要なすべてを身に付けていることをはっきりと物語っていた。2018年には、プレハッチャやチョ・ソンジン(ショパン・コンクール優勝)を輩出した浜松国際コンクールにチャレンジし、惜しくも優勝は逃したものの見事に第2位に食い込み、あわせて聴衆賞とワルシャワ市長賞を獲得した。約4年ぶりの登場となる今回のリサイタルでは、葬送ソナタ、英雄ポロネーズ、バラード、舟歌、ワルツ、マズルカと逃げも隠れもできないショパンの名曲がズラリ。いままさに世界へ飛翔しようとする21歳の天才が放つ輝きに魅了されることだろう！



Tomoharu Ushida

© Ariga Terasawa

神童から真の天才に！世界へ飛翔する21歳！

ステージレポート

Stage Report

7月2日
~8月6日

今回は、新型コロナウイルスの影響で延期となっていた所沢ミュージリニューアル公演の当日の様子と感染拡大防止対策をご紹介します。

2020
7/2(木)

ミュージリニューアル Vol.1 新ホールオルガニスト お披露目コンサート~ Re:START

〈アークホール〉
出演／三原麻里[オルガン]、原田真侑[オルガン]
曲目／J.S.バッハ:フーガト短調(小フーガ)BWV578
コラール(目覚めよと呼ぶ声あり)BWV645
ヴェルディ:ウェストミンスターの鐘op.54-6 ほか

所沢ミュージリニューアル公演の第1弾。お客様にご入場いただくコンサートは571日ぶり! 通常のコンサートとは異なり、新型コロナウイルス対策をとって実施しました。

出演は、4月に第4代ホールオルガニストに就任した三原麻里と原田真侑。バッハの名曲や、学校のチャイムでお馴染みの「ウェストミンスターの鐘」など、オルガンの名曲が演奏されました。またフランク「カンタービレ」では、病院で働く方々、私たちの生活を支えてくださった方々への感謝の気持ちを込めて幻想的なブルーライトでオルガンを照らしました。

オーバーホールを終えたばかりのオルガンで、これまでよりも洗練された響きをお客様にご堪能いただきました! 今後のオルガンコンサートもお楽しみに…。



チケットの半券はお客様ご自身で切り取っていただきました



会場の入口ではサーマルカメラで検温を実施



ソーシャルディスタンスを徹底した客席の様子



感謝の気持ちを込めてオルガンをブルーにライトアップ



ホールオルガニストに就任した三原麻里・原田真侑

8/6(木)

ミュージリニューアル Vol.2 細川千尋トリオ CLASSIC×JAZZ

〈アークホール〉
出演／細川千尋[ピアノ]、井上陽介[ベース]
セバスティアン・カプティン[ドラムス]
曲目／ジョゼフ・コスマ:枯葉
マイルス・デイヴィス:ナーディス
細川千尋:Espoir ほか

所沢ミュージリニューアル公演の第2弾には、気鋭のジャズピアニスト細川千尋が名手・井上陽介とセバスティアン・カプティンと共に登場。

7月2日の公演と同様、新型コロナウイルス対策を行い実施しました。コンサートは細川千尋のアレンジによるラヴェルの「ボレロ」からスタート。その後はジャズの名曲「枯葉」や「ナーディス」へと続き、そして自作の「Espoir」「黎明-Reimei-」まで、多彩なタッチで観客を魅了しました。

3人の熱演に会場からは割れんばかりの拍手が! 飛沫防止のためブラボーはご遠慮いただいておりますが、代わりにブラボーと書かれた看板を掲げているお客様がいらっしゃいました。



リハーサルでもソーシャルディスタンスを確保



熱演を繰り広げる細川千尋トリオ



久しぶりのコンサートで笑顔がはじける



終演後もエネルギー満ちた3人

写真撮影(市民カメラマン)／三平賢郎(7/2)、滝島利男(8/6)

編集後記

最近、フィンランド生まれのモルックというあるマイナースポーツの練習に励んでいます。練習場所は普通の公園。最初は恥ずかしかったのですが、いまではまったく気にならなくなりました。それどころか近所の小学生も「やりたい!」と一緒に練習をしています。こうやって競技人口が増えてオリンピック種目になればいいなあ~なんて思っています。オリンピック日本代表を目指してこれからも練習頑張ります! (M)

チケットのお問合せは……ミュージチケットカウンター

04-2998-7777

●窓口・電話予約10:00~18:00 ※休館日を除く

●インターネット予約

所沢ミュージ

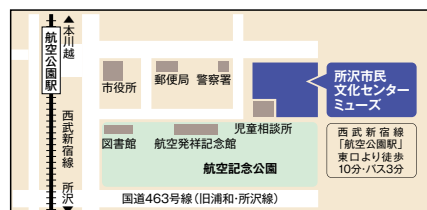
検索



クラシック・ポピュラー・演劇・寄席など多彩で魅力溢れる公演を開催しております!

詳細はミュージホームページでご確認ください。

<http://www.muse-tokorozawa.or.jp>



※公演情報は2020年8月27日現在のものです。曲目・出演者の変更やチケットが売切れとなる場合がございますので、ご了承ください。

今回のインフォ・マートは11月15日発行予定です。どうぞお楽しみに。